

静観台グループ例会

於：サイエンスフィールド 2001. 10. 10

参加者 石浦（科学園）高松（仁美小）福井（伊島小）

2週続いての参加者3名。ちょっと低調なので石浦先生には申し訳ないです。しかし、高松先生に紹介していただいたグッズはこれから発展していきそうな予感がしますし、福井が突拍子もない理科教育論を打ち上げたにも関わらず、最後まで聞いていただけたことはありがたかったです。

【バランスバード】高松

やじろべえの原理で微妙なバランスをみせる置き物。学校関係では紙で作る『バランスとんぼ』がよく知られていますが、これはデザインを鳥にして商品化したもの。写真右のプラスチック製のものは以前からしっていたのですが、今回紹介していただいたのは左側の木製のもの。けっこう大きくて厚みもやすりで調整され立体感がある。きっとこれは高いのだらうと思っていたら、なんと100円ショップのものだそうです。スバラシイ。

【Revolution】高松

長さ15cm程度のダンベル状のオブジェが台の上でプカプカ浮かんでいる。手で持って回すと接点がないだけに長い間クルクルと回り続ける。そんな科学おもちゃがあることはお店で見て以前から知っていました。楽しそうだけど高い！だからこれまでは買おうと思ったことはありませんでした。しかし、これも100円。おそろべし100円ショップ！

【生涯理科の提唱】福井

『生涯理科』という言葉は福井の造語であり、1992年に千葉大で行われた日本理科教育学会に於ける発表で初めて用いた概念です。『生涯理科』は理科の目的を国家維持の視点から個人の豊かな生き方へと転換するもので、義務教育段階での理科教育をも根底からとらえ直す必要性を訴えるものです。今回は10年間あたためてきた「生涯理科」の考え方を、教研集会での発表をひとつの契機としてまとめ直してみました。まだまだ具体性には欠けるのですが、研究のイントロダクションとして、その対極にある「殖産興業の理科」を示し、生涯学習の先駆としてチャンピオンスポーツからの転換を図った体育の例を挙げてみました。今後は生涯理科の目的である、「生涯を通して自然との関わりを深め、科学的に思考する人間の育成」を図るため小学校段階で何ができるのか、どのように授業を創っていけばよいのか、次の段階に研究を進めていきたいと考えています。

